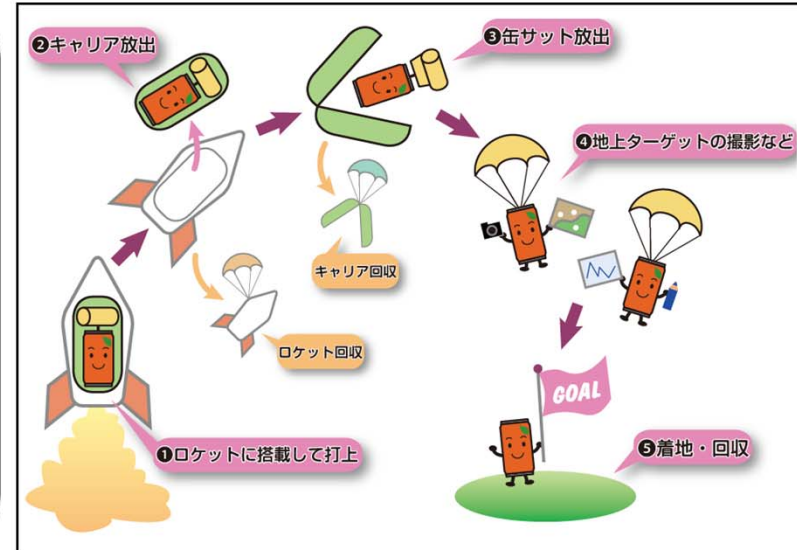


缶サット甲子園

全国から地方大会を勝ち抜いた高校生チームが、アイデアとそれを実現できるチームワークを競います

<概要>

全国の高校(学校単位)から募集されたチーム(教員1・生徒3)が、缶サット(自律型飛行ロボット)の性能を競います。地方大会により選抜された10校が全国大会に進みます。全国大会では350m程度までロケットで機体を打ち上げ、競技を行います。優勝チームは大学生の国際大会(アメリカ・ネバダ州で開催)にオブザーバ参加し、高度4kmまでの飛行実験を体験できます。



年間スケジュール

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

★ レギュレーション公開

★ 全国大会

★ 参加申込み〆切

★ 国際大会(ARLISS)

★ 地方大会

主催:『理数が楽しくなる教育』実行委員会

(事務局:和歌山大学宇宙教育研究所)

対象:全国の高校生チーム(学校単位)

参加チーム数:20~30校(地方大会)

開催地:地方大会(北海道・秋田・都内近郊・和歌山・九州) / 全国大会は持ち回り

宇宙教育研究拠点ネットワーク構想

【目的】

次世代を支える**技術者・研究者の育成**を行うために宇宙教育拠点を設置する。また**留学生の受入**により、**宇宙外交分野におけるリーダーシップの維持**に務める。教育拠点ではロケットの打上や衛星の運用試験など、宇宙関連機器の製作・試験・実験による**実践的なものづくり人材育成**を行う。同時に、これを全国から集まる交流人口の増加を地域振興の核とし、**地方における教育拠点の経済効果を実証**する。

拠点を利用する教員・学生は地域住民とも十分な議論を行い、周囲には安心でき、内部に入る学生には安全な実験環境を整える。この過程を通じて、**任せられる人材の育成**にも努める。

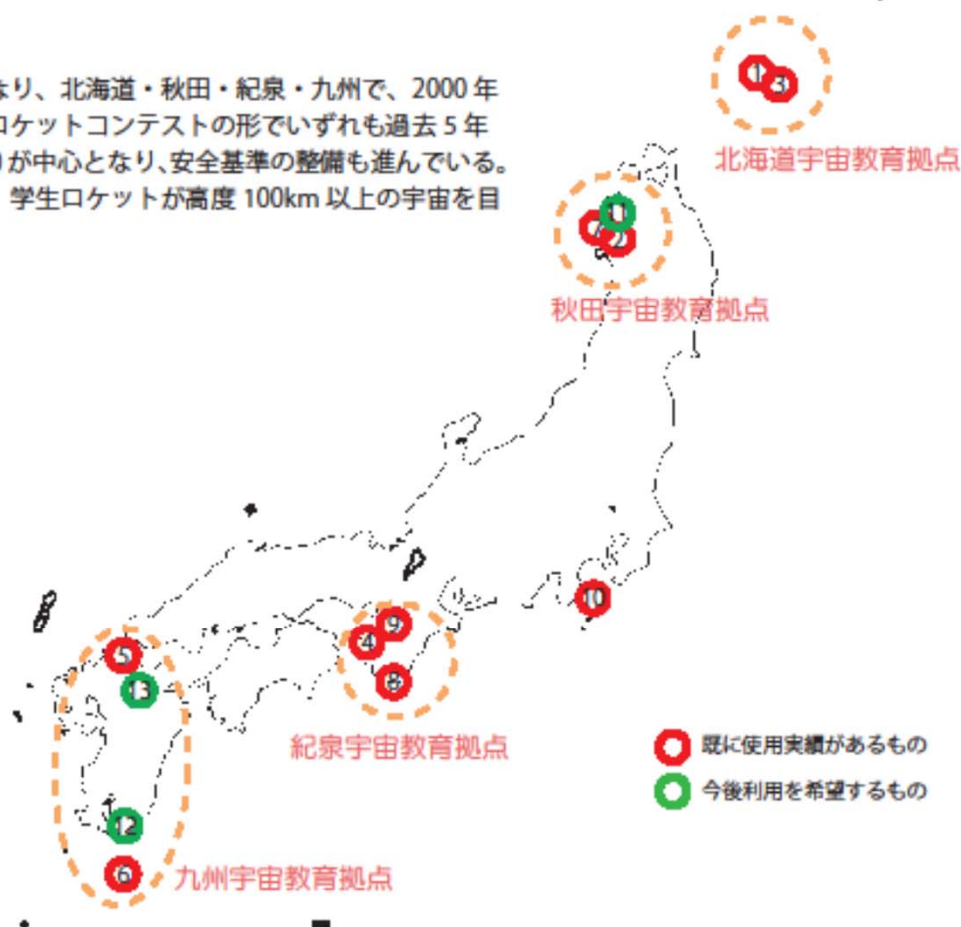
【現状】

北海道大学・秋田大学・和歌山大学・九州大学・九州工業大学が中心となり、北海道・秋田・紀泉・九州で、2000年頃より宇宙教育拠点の運用（秋田・種子島では能代宇宙イベントや種子島ロケットコンテストの形でいずれも過去5年間運用実績有り）が進められている。UNISEC(大学宇宙工学コンソーシアム)が中心となり、安全基準の整備も進んでいる。①～⑥の拡張整備に加え、新たに⑦～⑫の教育拠点を整備することにより、学生ロケットが高度100km以上の宇宙を目指す教育環境を整えることが出来る。

【課題】

- ・ **用地の確保**と**常勤職員の設置**による恒常的な使用。
- ・ **JAXA 関連施設との協力**によるより高度で専門的な教育拠点化
- ・ 留学生の受入体制の整備
- ・ ネット通販等による、全国的な電子部品販売網の整備

所在地	種類	着地点	高度規制	利用時期	管理校/主な使用校
① 北海道大樹町	射場	陸	1km	3月	北海道大・東海大
② 秋田県能代市	射場	陸	400m	春・夏・秋	秋田大他十数大学
③ 北海道大樹町	射場	海	10km	春・夏・秋	北海道大
④ 和歌山県加太	射場	陸	400m	通年	和歌山大・大阪府大
⑤ 福岡県北九州市	射場	陸	800m	通年	九州工大
	各種衛星試験			通年	[九工大施設]
⑥ 鹿児島県種子島	射場	陸	600m	3月	九大他十数大学
⑦ 秋田県能代市	射場	海	10km	春・夏・秋	東海大・秋田大他
⑧ 和歌山県甲本	気球	海	30km	春・夏・秋	和歌山大
⑨ 大阪府熊取	耐高エネルギー粒子試験			通年	[京大施設]
⑩ 東京都伊豆大島	射場	陸	1km	通年	東海大・九工大・都市大
⑪ 秋田県能代市	地上燃焼試験			通年	[JAXA施設]
⑫ 鹿児島県内之浦	射場	海	5km以上	通年	[JAXA施設]
⑬ 大分県日出生台	射場	陸	5km	通年	九工大



我が国の宇宙外交 / 海外マーケット獲得の戦略的ツール

- 海外に日本の宇宙教育を輸出し、「共に学ぶ」事で強固な人的ネットワークの基盤を構築
- 我が国の技術 / 考え方を「国際的なスタンダード」として普及、海外戦略に寄与する
- 『教育で稼ぐ』のではなく、共通基盤・共通思考を持った国々と新たな宇宙クラスタを構築。共に支える宇宙インフラにより新しい宇宙利用を促進し、win-winな関係で『全体として稼げる』ビジネスモデルを目指す